

国際協力研修「地域保健看護管理職のための保健事業運営能力強化」  
(JICA フィジー国「生活習慣病対策プロジェクト」カウンターパート研修)  
Training for Primary Health Care Nursing toward NCD Prevention  
(実施期間：2016年8月29日～9月9日)

1. 本研修の概要

本研修は、JICA フィジー国「生活習慣病対策プロジェクト」※の一環として、同国の看護管理職の生活習慣病に関する保健事業の企画・運営・評価に関する能力強化と、生活習慣病対策推進のためのリーダーシップ獲得を目的に実施されたものである。研修生らは、日本の生活習慣病対策の実際を参考にしながら、自国の生活習慣病対策の課題を整理することにより、自国での生活習慣病対策の推進やそれに関わる人材育成体制整備の計画を立案するため、講義、演習、フィールドトリップからなる2週間のプログラムに積極的に参加した。



【集合写真 本院： 玄関ロビー】

2. 対象者

フィジー保健省中部事務所の看護部長、中部・東部事務所の現任教員担当官ほか、管理者レベルの看護師10名。

3. 研修の内容

全行程のうち、本院では、「わが国における生活習慣病対策とPDCAサイクルによる展開」、「フィジーのデータに基づく地域診断」(8月31日)、「生活習慣病対策における看護職の役割と人材育成」(9月1日)の各テーマの講義を行ったうえで、講義内容を自国のコンテキストに合わせて応用するための演習を両日にわたり実施した。また、日本における生活習慣病対策の実際とそれにかかる地域医療連携、看護職の役割等を学ぶため、本院職員が同行して、滋賀県東近江市の保健所、病院、訪問看護ステーション等を訪問し、関係者との協議により学びを深めた(9月2日～6日)。研修期間の終盤には、本院職員の支援のもと、自国において各研修員が生活習慣病対策を推進するための行動計画を作成した。各自が作成した計画は、研修最終日にJICA本部関係者らに向けて発表され、計画の実現に向け活発な意見交換がなされた。

フィジーでは、生活習慣病対策は優先課題の一つであり、修了式にはフィジー在日大使が参加するなど、本研修成果への期待の高さがうかがえた。研修生からは、研修内容はもちろんのこと、日本の文化からも生活習慣病対策にかかる多くのヒントを得たことが報告され、帰国後の研修生の活躍が期待される。



【講義風景 本院： 4-6及び4-7講義室】

※フィジー「生活習慣病対策プロジェクト」の全体像

フィジーでは、感染症疾患から糖尿病や心血管疾患などの生活習慣病への疾病構造の転換が加速し、死因の7割(2012年)が生活習慣病によると推定されている。プロジェクトは、2015年5月からの5年間、中部地区(人口約36万人/フィジー総人口85万人)を対象に、根拠に基づく生活習慣病対策の推進のための能力強化、特に、ハイリスクアプローチ型一次予防のための健康診査の体制並びに継続的なモニタリング・評価の強化に必要な技術移転、並びに保健医療人材に対する業務運営能力の強化を目指している。

期待されるのは、以下の4つの成果

- [成果1] 根拠に基づいた生活習慣病対策のための介入が特定・実施される
- [成果2] 生活習慣病対策に関連した業務運営能力が強化される
- [成果3] 生活習慣病対策のサービスのモニタリング・評価体制が強化される
- [成果4] プロジェクトの知見がフィジー全土や他の大洋州諸国に共有される